事務局だより

❖…この十年、日本の社会の中で最も変化したものの一つに、女性を取りまく環境があげられます。女性自身の意識も大きく変わって、より直接的に社会にかかわるようになりました。「女性とスポーツ」の関係について考える時、見過ごすことのできないのが、この「女性と社会」のかかわりです。

WSFジャパンは設立十一年。以前は「女性とスポーツの問題」って何なんだと、なかなか理解してもらえなかったのですが、最近では「女性と社会の問題にも共通することだ」とわかってもらえるようになってきました。本当の意味の活動はこれから、ともいえるのですが、ひと昔前からWSFジャパンについて理解し、陰で応援してくれている人たちも、少なくありません。

その一人、小谷正一さんが八月八日に八十歳で亡くなりました。小谷さんはプロ野球のパリーグの創設や東京五輪、大阪万国博覧会などのビッグイベントを手掛け、プロデューサーの世界ではまさに〝神様〟的存在の方でした。一九八〇年、WSFジャパン設立のキッカケとなる第一回国際女性スポーツ会議に一億円のスポンサーをつけてくださったのが小谷さんでした。本当にお世話になりました。心よりご冥福をお祈り致します。合掌。(三ッ谷)

❖…WSFジャパンは会員の皆さんの物心両面のご支援により運営されています。会費未納の方は至急ご入金下さるよう、お願いいたします。

新入会員紹介

〈団体会員〉▽㈳日本プロサッカーリーグ(東京・千代田区)▽滋賀県婦人体操リーダー研究会(滋賀・大津市)▽読売サッカークラブ ベレーザ(東京・稲城市)

〈個人会員〉▽井上喜久子(東京・目黒区)▽小粥田美子(愛知・豊田市)▽高山アイコ(東京・港区)▽黒瀬千恵(東京・立川市)▽井坂保子(東京・港区)▽矢島万沙未(千葉・浦安市)▽島健(東京・千代田区)▽島美紀(東京・港区)▽西垣成美(愛知・名古屋市)(八月三十一日現在)

WSF Japan News
第23号 季刊
発 行 1992年10月
発行人 三ッ谷洋子
編 集 WSFジャパン広報委員会
発行所 WSF Japan
〒151 東京都渋谷区西原3-36-23-203
SPORTS 21内
TEL 03(3467)4360
FAX 03(3467)5455

＝WSFジャパンQ&A＝

—WSFジャパンは「財団」ですか？

「日本語の名称を『女性スポーツ財団日本支部』というので、こんな質問をよく受けます。米国WSFは教育のための公益法人として一九七四年にスタートしました。WSFジャパンは米国WSFをお手本に作られた団体で〝WSF〟の名称を借りていますが、日本では正式な財団ではありません。

日本も財団組織にしてはどうかというアドバイスをいただくこともあるのですが、現在、財団を設立するためには二億円の基金が必要だといわれています。女性スポーツに理解のある大スポンサーを見つけて、早く正式な財団にしたいという希望は持っているのですが、現実にはなかなか……」

—では、財源はどう捻出しているのですか？

「会員の入会金、年会費とこのWSFジャパンニュースの広告料、足りない分は、事務局を置かせていただいているスポーツ21からの寄付で埋めています。今年度予算は二百八十万円強ですが、このためには団体・個人・学生会員が計二十人、新たに入会していただかねばなりません。

すでに会員の方は、まわりのお友だち一人を仲間に誘ってください。一日でも早く、事務所を独立させ、財源的にも自立したいというのが、設立当初からの夢なのです。

＝WSFジャパンとは＝

WSFジャパン（女性スポーツ財団日本支部）は、米国のWSFをお手本とし、日本の女性スポーツの発展、振興を目指し、一九八一年十二月に旗揚げされた非営利の団体です。会員は選手、指導者をはじめ、一般のスポーツ愛好者、研究者、スポーツビジネスにかかわる企業関係者など、男女を問わずさまざまな分野にわたっています。ボランティア団体なので、会員の方の会費が運営の財政基盤となっています。私たちの手で、女性スポーツの世界を考える仲間をどんどん増やしてゆきましょう。

入会金　年会費

	入会金	年会費
賛助会員	5万円	10万円（一口）
団体会員	5千円	1万5千円
個人会員	3千円	8千円
学生会員	3千円	5千円